

販売名：電気味覚計 TR-06

【禁忌・禁止】

検査時の注意

検査の時は、マスクやゴム手袋の着用など、院内の規則に従うこと。

感染を防止するために

導子電極棒、グリップ、不関電極は、使用前後に必ず消毒、滅菌を行うこと。

不関電極の電極用パッドは被検者ごとに交換すること。

消毒、滅菌方法、交換方法は取扱説明書を参照してください。

導子電極棒、グリップ、不関電極は、工場出荷時には消毒されていないので、使用前には必ず消毒すること。

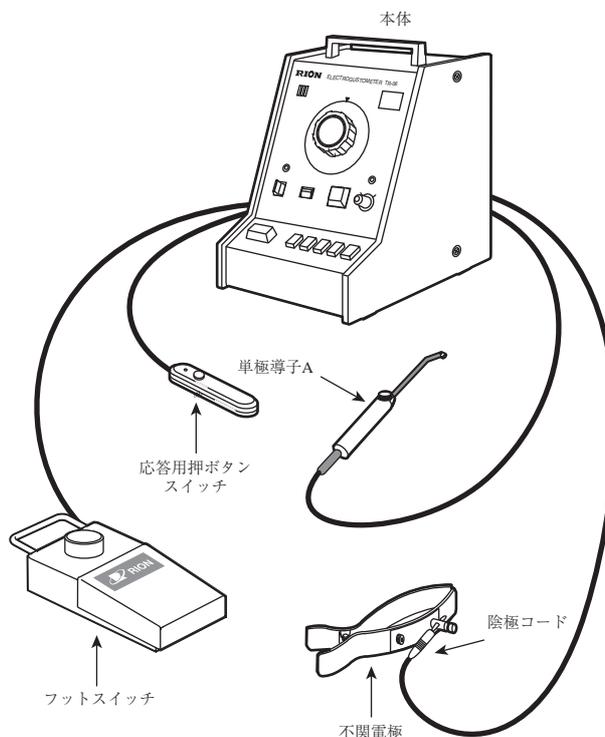
不関電極は必ず頸部に装着し、単極導子は舌以外に使用しないこと。

本器は、酸素または亜酸化窒素(笑気ガス)・可燃性麻酔ガスが存在する雰囲気では使用しないこと。

発火、または爆発の危険があります。

【形状・構造及び原理等】

本体と接続されている付属品から構成されています。



電源 単3形乾電池 4本 0.4 W 以下
寸法、質量

約 170(幅)×205(高さ)×185(奥行) mm
約 2 kg

体に直接接触する部分の組成

応答用押ボタンスイッチ	ABS樹脂
単極導子 A	ステンレス
把持部	ジュラコン樹脂
不関電極	アクリル板
電極用パッド	合成繊維、含水性ゲル
フットスイッチ	ペダル：鉄板
刺激電流可変ボタン	黄銅棒、ニッケルメッキ

【原則禁忌】

(併用しないことを原則とするが、特に必要な場合は下記4項目を守り、慎重に適用すること)

ペースメーカー併用時の注意事項

- 検査中は被検者をよく観察し、異常が発生した場合は、直ちに検査を中止し、適切な処置を取ること。及びペースメーカーに異常が発生していないことを確認すること。
- 不関電極はペースメーカーからできるだけ離すために、埋め込み位置の反対側の首のできるだけ上部に当てること。
- 不関電極と首との電氣的接続を良好とするために、電極貼り付け部をアルコールで拭き汚れを落とすこと。
- 検査は上昇法で行い、不必要に電流を流さないこと。また検査はゆっくり行い周期的な電流の断続を行わないように実施すること。

取扱説明書を必ず参照してください

動作原理

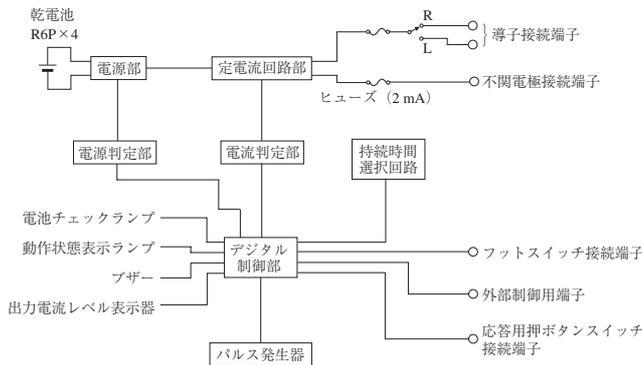
通常、味覚は種々の感覚が関与した複雑な総合感覚であり、従来行われている味覚溶液による検査では、検査液の拡散、刺激強度の不定などのために定量的測定が困難であり、また、検査に長時間を要するなどの欠点がありました。

これに対して、舌に電流刺激を与えた場合に生じる電気性味覚により、味覚神経の機能を検査する電気性味覚検査は、電気性味覚域値を刺激電流の値として測定するため定量的測定が容易であり、また、刺激範囲を正確にコントロールすることが可能で、さらに、検査時間も短くできます。

したがって味覚障害の診断に対して臨床的価値も大きく、耳鼻咽喉科、神経内科、脳神経外科等の臨床で利用度が高い。特に顔面神経麻痺の障害部位の診断及び予後の判定、聴神経腫瘍の早期発見などに有効とされます。

本器は、乾電池の電圧を変換して必要な電圧を得る電源部、刺激電流を得る定電流回路部、電池の電圧をチェックする電源判定部、導子と不関電極の接触状態をチェックする電流判定部、および電源判定部と電流判定部からの信号によりランプの点灯、点滅、ブザー音をコントロールするデジタル制御部により構成されています。

下記ブロックダイアグラムを参照してください。



【使用目的】

電気味覚域値検査

【品目仕様等】*

適用規格

JIS T 0601-1:1999

刺激電流

刺激電流可変範囲

-6 dB~34 dB 2 dB ステップ (0 dB=8 μ A)

刺激電流の誤差**

ダイヤル指示値に対して ± 0.3 dB 以内

刺激電流の変化量 40 dB に対して ± 0.5 dB 以内

刺激電流持続時間

MANUAL、0.5、1、1.5、2 秒の 5 段階切り替え

刺激持続時間の誤差

$\pm 2\%$ 以内 (但し、0.5 秒レンジは ± 0.02 秒以内)

被検者保護装置

ELECTRODE POS (+) 端子

ELECTRODE NEG (-) 端子

(2 mA 精密ヒューズ内蔵)

被検者の応答確認

ブザー音による

動作状態の確認

(刺激電流印加時)

接触良 ランプの点灯による

接触不良 断続ブザー音による

電池容量の確認

使用可 ランプの点灯による

使用不可 断続ブザー音およびランプの点滅による

【操作方法又は使用方法等】

準備

1. 電池の入れ方
本体の電源スイッチを「OFF」にして、単3乾電池4本を極性を間違えなく入れます。次に、導子、不閃電極、応答用押ボタンスイッチ、フットスイッチのプラグを各端子に接続します。
2. 電源の投入
本体の電源スイッチをONにします。
3. 被検者側の準備
被検者に検査方法を説明し、応答用押ボタンスイッチを渡します。

検査

1. 検査項目の選択
正面パネルのスイッチで目的の検査をする状態にします。
2. 検査
あらかじめ検者が設定した検査条件により、検査を行います。

検査結果の出力

表示

検査結果は、本体の表示器で確認します。

【使用上の注意】

【禁忌・禁止】欄に記載されている事項に加えて、以下の項目も安全のために必ずお守りください。
また、医用電気機器の使用上(安全及び危険防止)の注意事項《厚生省薬務局長通知 昭和47年6月 薬発第495号による注意事項》を必ず参照してください(取扱説明書のviページ)。
取扱説明書をよく読み、本器の動作を十分理解してから操作するようにしてください。

機器の設置

- 水のかからない場所、直射日光の当たらない場所に設置してください。
- 温度、湿度、ほこり、塩分、硫黄分などを含んだ空気などにより悪影響の生じる恐れのない場所に設置してください。
- 傾斜、振動、衝撃(運搬中を含む)など、安定状態に注意してください。
- 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に設置しないでください。

機器の使用前

- すべてのコードの接続が正確でかつ安全であることを確認してください。
- スwitchの設定状況、表示器などの点検を行い、機器が正確に作動することを確認してください。

検査中：静電気による誤動作に注意

大きな静電気により、機器が誤動作をする場合があります。
履物・イス等の違いにより、大きな静電気が起きる場合があるので注意をしてください。
動作に異常が見られた場合は、それまでのデータを記録した上で、電源を入れ直してください。

機器の使用後

- 使用後は、必ず電源を切ってください。
- コード類の取り外しに際しては、コードを持って引き抜くなど無理な力をかけないでください。
- 付属品、コードは、整理してまとめておいてください。
- 機器は、次回の使用に支障のないように必ずきれいにしておいてください。

保管場所

- 水のかからない場所に保管してください。
- 温度、湿度、ほこり、塩分、硫黄分などにより、悪影響の生じるおそれのない場所に保管してください。
- 傾斜、振動、衝撃(運搬中を含む)など、安定状態に注意してください。
- 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないでください。

その他

- 機器は、改造しないでください。
- 保守点検
 - 機器および付属品は、必ず定期点検を行ってください。
 - しばらく使用しなかった機器を再使用する時には、使用前に必ず機器が正常にかつ安全に動作することを確認してください。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

使用環境条件

周囲温度範囲 15～35℃
相対湿度範囲 30～90% R.H.(但し、結露のないこと)

耐用期間[自己認証(当社データ)による]

次ページに記載の保守点検を行った場合に
本体 7年

保管環境条件

下記の温度範囲以外で保存のこと
恒久的損傷を与える可能性のある温度：-10℃以下、50℃以上

詳細については、取扱説明書の「取り扱い上の注意」を参照してください。

【保守・点検に係る事項】

保守・点検

導子、不関電極、応答用押ボタンスイッチ、フットスイッチは、**本体に付属されたものを必ず使用してください。**

定期点検のお願い

- 検者は、外観的点検を行い、また操作が正常に行えることを検査前に毎日必ず確認してください。
- 客観的校正点検は1年に1回以上行ってください。客観的校正点検は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

万一故障した場合は、手を加えずに適切な表示を行った後に、販売店または当社サービス窓口(リオンサービスセンター株式会社* TEL:042-632-1124)までご連絡ください。

ほこりなどの汚れを落とす時は、必ず電源スイッチを切ってから清掃してください。**

本体を清掃する時は、消毒用アルコール、または薄めた中性洗剤を脱脂綿に含ませてよく絞り、軽く拭きます。次に、きれいな水を含ませた脱脂綿をよく絞り、拭き取ってください。シンナーやベンジンなどの溶剤は絶対に使用しないでください。ケースが溶けたり、文字がはがれたりします。

【包装】

本体と付属品が紙製ダンボール1箱に梱包されます。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売業者

リオン株式会社

〒185-8533 東京都分寺市東元町3-20-41
TEL:042-359-7880(代表)、FAX:042-359-7441

製造業者*

リオン株式会社